



な が れ



教育の不易の部分を見つめ直す

～当たり前前を当たり前前にできる子供を育む～

校長 服部 みどり

子供たちの靴箱のある場所に、先日「はきものをそろえる」という言葉を貼りました。長野市の円福寺の住職が書かれたものですが、鎌倉時代の道元という人の「脚下照顧」の教えが元になっています。

「脚下照顧」とは、自分の足元を見なさいという意味です。自分の履物すらそろえられないようで何ができるかという戒めも込められていますが、自分を振り返りなさい、自分の立場を見極めなさい、すべきことをしなさいという教えだということです。他人の批判はしやすいのですが、自分を批判することはなかなかできません。でも、どんなに忙しい時でも心にゆとりをもつことで自分の姿を顧みていきたいです。子供たちにも、まずは履物をそろえ、自分の心を整えるところから始めてほしいと考えます。

今年度の児童アンケートの結果、「教室や廊下にごみが落ちていたら拾って捨てるように心掛けている」の項目は「そう思う」「まあ、そう思う」の2つの答えを合わせても69%でした。一番低い数値だったことが気になりました。これは少し気を付ければ心掛けられることではないかと思うのです。高い技術が必要な訳ではなく心掛け次第で誰でもできることではないかとも思うのです。

はきものをそろえる

はきものをそろえるところもそろう
ところがそろうとはきものもそろう

ぬぐとときにそろえておくと
はくときにところがみだれない

だれかがみだしておいたら
だまってそろえておいてあげよう

そうすればきっと
せかいじゅうのひとのころも
そろうでしょう



(円福寺 住職 藤本 幸邦)



さて、実際に「はきものをそろえる」という言葉を貼ってみて結果はどうでしょう。まだはっきりとは言えないのですが、靴箱の靴の踵がきれいにそろっている子が増えてきているようです。とてもうれしく思います。私が時々、子供たちの靴の踵のずれを直していると、「ありがとうございます。」という言葉掛けてくれたり「手伝います。」と言ってくれたりする子がいるのもうれしいことです。

うれしいといえば、先週、近所の方からメールと電話をいただきました。まず届いたのはメールです。「倒れた人が救急搬送されるのを戸三小の子が手伝ったそうです。搬送された人が感謝していました。」というものでした。最初は何年生の誰なのか分からなかったのですが、すぐに4年生3人と6年生1人だということが分かりました。子供たちに話を聞き「それはいいことをしましたね。素晴らしいです。」と言うと、どの子も「いえ、ぼくよりも〇〇くんの方が早く駆け付けて、大丈夫ですかと声を掛けていました。」「〇〇くんは、リュックサックも降ろさせてあげていました。」「救急車を呼ぼうと思ったけれど大人の方がやってくれました。」と他の人の良いところを話すのです。「当たり前前をただですから…。」という言い方が、それこそ少し余裕があるように感じました。その後、倒れられた方からも電話をいただき、快方に向かっていらっしゃる事が分かりました。その時に「子供たちに本当に感謝しています。大人の人たちが通過ぎていくのに子供たちはずっと声を掛けて心配してくれたことに感激しました。とても良い子たちで、今度会ってお礼を言いたいです。」と言われました。倒れた人がいたら助けるのは当たり前かもしれませんが、実際にできるかどうかになると大人でも自信のない人もいないのでしょうか。

そんなに大層なことでなくても、人としてできることを毎日の生活の中で丁寧に行っていくことの大切さを改めて私も学ばせてもらいました。これこそ、学校や家庭で子供を育てるにあたり、いつの時代でもどんな時でも、教えていかなくてはいけないことなのではないのでしょうか。教育の不易の部分を見直し、当たり前前を当たり前前にできる子を、今後も育てていきます。1年間、ありがとうございました。

卒業する6年生へ

6年生の皆さん、御卒業おめでとうございます。
この1年間、1年生が大変お世話になりました。そんな1年生から、皆さんに向けてのメッセージを紹介します。
「いつも優しくしてくれてありがとう。」
「卒業おめでとうございます。中学校の勉強を頑張ってね。」
「いつもみんなを楽しくしてくれてありがとう。」
「遊んだり一緒に掃除したりしてくれて、ありがとう。中学生になっても忘れないでね。」
「中学校楽しみですか？僕は悲しいです。ずっと忘れませんよ。」
「中学校でも、お友達をたくさんつくってください。」
1年間、学校の代表として頑張ってきたことが、下級生によく伝わっていますね。戸三小での経験を生かして、中学校生活を満喫してください。（1年担任 江蔵・百野）



6年生の皆さん、御卒業おめでとうございます。先日の6年生を送る会では、2年生は今までお世話になった感謝の気持ちをこめて「詩」を作りました。どのような「詩」にするかの話し合いでは、このような言葉が出てきました。
「6年生、いつも優しくしてくれてありがとう。」「学芸会の劇、格好良かった。自分たちも6年生みたいなすごい劇がしたい。」
「登校班やなかよし班でたくさんお世話になりました。」「一緒に遊んでくれたね。」「6年生、大好き。」
最高学年として下級生に優しくしてくれた6年生。2年生はそんな6年生が大好きです。本当にお世話になりました。中学生になっても皆さんらしく、元気！笑顔！で過ごせることを願っています。（2年担任 高橋・大橋）



6年生の皆さん、御卒業おめでとうございます。
「休み時間や放課後に公園で遊んでくれてありがとうございました。」
「学芸会の歌声すてきでした。」
「中学校に行ってもがんばってください。」
3年生から6年生へのメッセージです。全校朝会での挨拶、地区別班やなかよし班の班長など、学校の中心となって活躍する6年生の姿がとても立派でした。3年生は、そんな6年生になれるよう、これから上級生として頑張ります。
“夢と現実を結ぶ橋は努力である。”どんな時も自分を信じて、夢に向かって進んでください。ありのままの自分であなたらしく、中学校へ行っても頑張ってください。（3年担任 工藤）



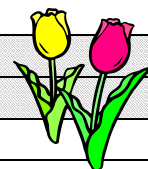
「思考に気を付けなさい、それはいつか言葉になるから。言葉に気を付けなさい、それはいつか行動になるから。行動に気を付けなさい、それはいつか習慣になるから。習慣に気を付けなさい、それはいつか性格になるから。性格に気を付けなさい、それはいつか運命になるから。」
これは、マザー・テレサの言葉です。人生を豊かに過ごすには、前向きな心、前向きな言葉が大切なのだと思います。前向きな心で、素敵な人生を送ってください。（4年担任 小澤）



6年生の皆さん、もうすぐ卒業、時の流れは早いですね。
「運動会、一緒に頑張ったね。」
「学芸会のマジョリン、声がよく出ていました。」
「模擬選挙の政党の政策が素晴らしかったです。」
同じフロアで生活した5年生は、6年生の姿をいつも見ていました。5年生は、先輩の姿を引き継ぎ、4月から最高学年として頑張ります。
中学校という新しい世界で、新たな出会いと関係、経験をたくさん積んでください。（5年担任 秦）

3月の主な行事予定（予定は変更になることもあります）

1	金	安全指導 歯磨き週間終 中学校体験入学6年 保護者会1・2・3年
2	土	
3	日	
4	月	B時程 5時間授業 卒業を祝う会6年
5	火	放課後学習教室
6	水	B時程 5時間授業(全)14時一斉下校 手話ダンス4年
7	木	落合郵便局見学2年
8	金	放課後ゼミ4年
9	土	
10	日	
11	月	A時程 6時間授業4・5・6年
12	火	放課後学習教室
13	水	B時程 5時間授業(全)14時35分一斉下校
14	木	
15	金	
16	土	
17	日	
18	月	A時程 6時間授業4・5・6年
19	火	
20	水	B時程 給食終 まなびの教室保護者面談
21	木	【春分の日】
22	金	B時程 修了式 卒業式予行
23	土	
24	日	
25	月	第93回卒業式
26	火	春季休業日始
4/5	金	春季休業日終 前日準備新6年
8	月	B時程 始業式(通常どおりの登校) 入学式



※3月の避難訓練は予告せずに実施します。
※(全)は全学年

在校生の皆さんへ

6年生はこの1年間、学校の中心として様々な面で活動してきました。1年生のお世話、登校班の班長やなかよし班の班長、委員長やクラブ長など…手本になった時もあれば、まだまだ力不足の時もあったと思います。でも、子供たちは、少しずつ時を重ねるのと同じように経験を積み重ねて6年生の自覚と責任をもち、行動できるようになってきました。
卒業まであと1か月。一人一人が中学校に向けてどのような意識をもって行動していくか、お世話になった戸塚第三小学校に感謝の気持ちをもって、残りの学校生活をどのように過ごしていくかが、大事になってくると思います。1日1日を大切にしながら、一つでも多くの思い出を作って、最高の小学校生活にしていきましょう。
在校生の皆さん、戸塚第三小学校の伝統を受け継いで、これからも頑張ってください。（6年担任 永井）